

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 38-1

通号 第 98 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

大英博物館に展示された
馬場小室山遺跡出土の人面画付土器

青木 義 脩*

2009年9月10日から11月22日までイギリスの大英博物館で日本の土偶展が開催されました。正式な名称は、

THE POWER OF

DOGU

CERAMIC FIGURES FROM ANCIENT
JAPAN

でした。この特別展に、さいたま市緑区三室の馬場小室山遺跡出土の人面画付土器（県指定文化財）が出品されました。私は機会があってこの展示会を見学することができました。以下、その模様を紹介したいと思います。大英博物館に見学に行ったのは、9月29日、30日の2日でした。まず、塀に DOGU の文字が白抜きになった真っ赤なポスターが掲出されていました。午前10時の開館と同時に展示室に向かいました。日本の展示室（92～94展示室）を通り階段を下りた91展示室になります。階段を下りてその部屋に入りますが、階段の途中に二か所の展示があり、最初にマンローの著、Prehistoric Japan の遮光器型土偶の頁が見開きで展示されていました。次の展示は岩偶です。階段をおりると展示室のエントランスとなり、岩木山の写真、萩内遺跡（岩手県）出土の土偶頭部、南羽鳥中岫第1遺跡（千葉県成田市）の人頭形土製品（いずれも重要文化財）が展示され、



人面画付土器



大英博物館のフェンスに掲出された土偶展のポスター

*埼玉県文化財保護審議会委員、緑区歴史の会会長

■ 目 次 ■

大英博物館に展示された馬場小室山遺跡出土の人面画付土器……………	1
特別展「市内中山道をひもとく」を開催して……………	4



壁面に国宝の風張遺跡（青森県）出土の合掌土偶が展示されていました。入口にやはり赤いパネルの表示で看板が付けられており、室内に入ると真正面のケースにハート形土偶（群馬県郷原遺跡出土・重要文化財）、著保内野遺跡出土の仮面土偶（北海道・国宝）、西ノ前遺跡出土の日本一背の高い土偶（山形県舟形町・重要文化財）が並び、まず入館者を圧倒しています。左側の陳列棚に沿ってまわっていくと人面装飾の縄文土器が並んでいます。その中にわが馬場小室山遺跡の人面画付土器が所を得ているのでした。

Deep bowl with human-face motifがこの土器の英文タイトルでした。

さいたま市内出土品では他に、岩槻区真福寺遺跡出土の「みみずく土偶」（岩槻区真福寺貝塚出土・重要文化財、東京国立博物館蔵）が、また埼玉県からは、さきたま史跡の博物館所蔵の赤城遺跡（旧川里町、現鴻巣市・県指定文化財）出土の「みみずく土偶」が出品されていました。そして奥の部屋に八ヶ岳と富士山の写真を背景に茅野市の棚畑遺跡出土の縄文のビーナスと称されるでっ張り土偶（国宝）、同市中っ原遺跡の仮面土偶（重要文化財）がそれぞれ厳かに飾られていました。ビーナスの肌に輝く雲母は、淡い光の中、いっそうマジカルに感じられました。

展示品67件（国宝3件、重要文化財23件を含む）、確かに土偶に関してこれだけの展示会は国内でもかつてなかったことです。

見学に訪れた日、国内関係者のほか、大英博物館のこの展示の関係者、この企画に係わり、またこの展示を企画指導さらには図録の編集に携わった英国セインズベリ日本藝術研究所の副所長サイモン・ケイナー博士に会うことができ、親しく意見交換ができたのは幸いでした。また、同博物館アジア部日本セクションには、人面画付き土器が



土偶展入口にて筆者（小川忠博氏撮影2009.9.29）

表紙絵になっている『浦和市出土品百選』の図書を寄贈してきました。また会場では、坪井清足先生（財団法人元興寺文化財研究所）や小川忠博氏（縄文土器の写真撮影技術を独走で開発その第一人者の写真家）夫妻などにも会えました。私の写っている写真は、小川氏の撮影によるものです。

9月30日、世界遺産ストーンヘンジへの日帰り一人旅を済ませた後、また大英博物館に戻り、夕方、見収めをしてきました。この土器の発掘調査から文化財指定などいろいろにかかわってきた“保護者”として、「じゃあね」と声をかけ振り向かずにこの部屋を背にしてみました。

この展示会の図録は、縦29.6cm、横22.0cmで厚さ1.4cm、176頁という厚いもので、オールカラー印刷です。図版は200点を越えています。編集は前述のようにサイモン・ケイナー博士で発行は、The British Museum Pressです。ちなみに、頒価は1冊19.99ポンドでした。



大英博物館

今回の土偶展は、性格上、日本各地の出土品、所蔵品が出品されたこともあり、国内では、各自自治体がそれぞれ町おこしを見据えた対応をしたと聞いています。ツアーで見学に行ったところ、出発式をしたところなど様々でした。その模様はインターネットでも確認できますが、これも興味があります。さいたま市では、浦和博物館において、平成21年6月20日から7月7日まで、

大英博物館出品記念企画展

人面画付土器と縄文人の顔

—市内縄文時代後晩期出土品より—

が催されました。いわば暫しのお別れ会でした。おらが村がすべてではありませんが、遺跡の保存や発掘調査は開発に支障があるとか、出土品の大量収蔵は施設に収まりきれず、どうもすれば無用の長物的発言をする人もいます。市域には三万年



以前からの歴史は地下に埋もれており、たまたま発掘調査した機会に出土した遺物は、「過去からの代表選手」です。その超代表の一つがこうした展示会に海外遠征までもした馬場小室山遺跡の人面画付土器です。多量に保存されている発掘調査資料は、それぞれ係わりがあり、歴史を作っているのです。そんなことを考えながら帰国しました。

なお、平成21年12月15日から平成22年2月21日まで東京国立博物館で帰国展「国宝 土偶展」が開催されました。

人面画付土器

さいたま市緑区馬場・馬場小室山遺跡出土（昭和57年発掘調査）。第51号土坑から30個ほどの土器とともに発見されたもの。高さ16.0cm、深鉢形土器で、写実的なタッチで男性の顔が描かれている。埼玉県指定文化財。



浦和博物館展示風景①



浦和博物館展示風景②

大英博物館出品記念企画展

人面画付土器と縄文人の顔

入館無料

じんもんがつかさどきと じよつもんじんのかお

— 市内縄文時代後晩期出土品より —

人面画付土器（埼玉県指定文化財）
出土品名：馬場小室山遺跡（緑区馬場1丁目）

食期 平成21年 6月20日(土)から
7月7日(火)まで

開館時間 9:00から16:30まで

さいたま市立浦和博物館 さいたま市緑区三室2458 TEL. 048-874-3960 月曜休館

企画展チラシ(表)

今年秋にイギリスの大英博物館で日本の縄文時代の土偶を紹介する展覧会が開催されることとなり、当館所蔵の人面画付土器を出品することとなりました。

この土器は、さいたま市緑区にある馬場小室山遺跡にて、昭和57年の発掘調査時に見つかった縄文時代晩期の深鉢形土器で、正面に人面が描かれた貴重な土器です。眉やまつ毛、口ひげなどが表現され、写実的に描かれています。

大英博物館に出品するにあたり人面画付土器をもっと知っていただき、また、さいたま市の歴史や文化を身近に感じる機会としてこの企画展を開催します。

さらに、市内出土の縄文時代後期から晩期にかけての土偶や土版など30点余の資料も展示します。

土版【埼玉県指定文化財】
出土品名：東北原遺跡（見沼区東大宮4丁目）

土偶 奈良瀬戸遺跡（北区奈良町）

土偶装束土器【埼玉県指定文化財】
出土品名：馬場小室山遺跡（緑区馬場1丁目）

土偶 小深作遺跡（見沼区小深作）

さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458
TEL & FAX 048-874-3960

交通案内

- JR北浦和駅東口から東武バス「市立病院行き」終点下車すぐ
- JR東浦和駅から国際興業バス「馬場駅行き」終点下車徒歩7分
- 専用の駐車場がありませんので、バスをご利用ください。

企画展チラシ(裏)



特別展

「市内中山道をひもとく」を開催して

さいたま市内には、五街道の一つである中山道が通っています。現在の浦和駅や大宮駅周辺の発展は、明治維新以降の近代化による鉄道や道路の整備により飛躍してきましたが、元をたどると400年ほど前に中山道の宿場として整備されたのを発端にしています。今特別展では、中山道の市内部分について、歴史や伝承、そして現在の様子など基本的な事柄を取り上げて紹介していきました。

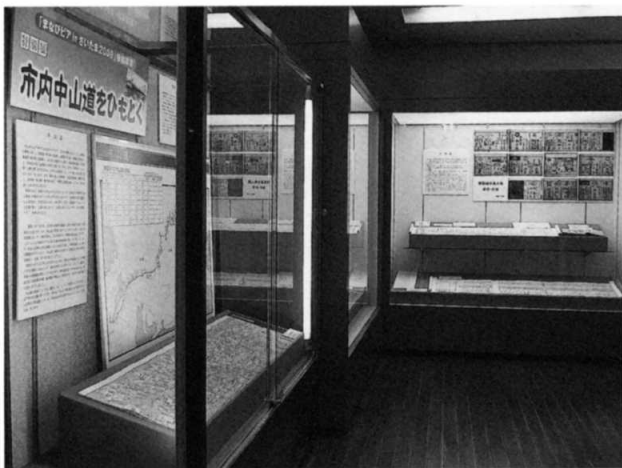
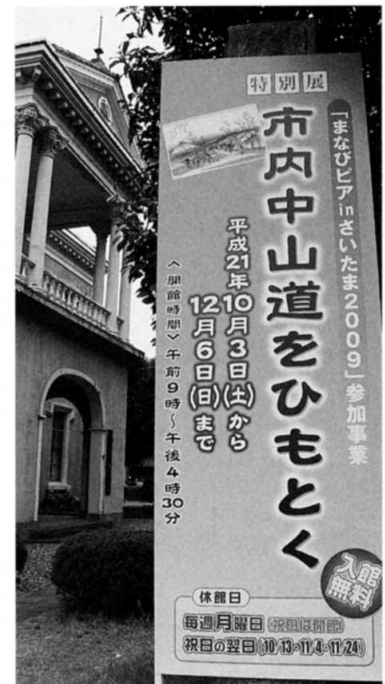
また当館を代表する資料の一つである浦和宿絵図（さいたま市指定文化財）は、常設されている複製品のほか、部分的ではありますが、原資料も公開し、およそ2週間に一回のペースで展示箇所を移動しました。

展示内容は、①中山道浦和宿と大宮宿、②浦和宿絵図、③ウォーク・イン・中山道という3つのテーマに大きく分けました。①では、まず中山道の概説のあと、浦和宿、大宮宿の概要および成り立ちの違いを、道中記や浦和宿高見世場絵図、大宮宿鹿絵図などと共に紹介しました。さらに助郷

制度について解説し、浦和宿助郷組合村略絵図などを展示しました。②では、浦和宿絵図の原資料と玉蔵院付近絵図を並べて比較できるように公開しながら、本陣や玉蔵院など主要な施設についても紹介しました。

③では、市内の中山道を南から北へ歩いて見られるように、歴史的なポイントを地図と写真で紹介し、伝説や、いわれなどをちりばめました。また、道中独案内図などの道中記や通行手形、行李など旅の道具もあわせて展示しました。

当館の代表的な展示テーマである中山道を特別展示するのは、平成11年以来10年ぶりでした。中山道に関して基本的な展示ではありましたが、ここ数年、来館者や文化講座でのアンケートで要望の多かったテーマでした。今後も市民のニーズにそった展示を心がけていきます。(S)



展示風景①



展示風景②



展示風景③

さいたま市立浦和博物館館報 **あかんさす** No.98
編集・発行 さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
TEL・FAX 048-874-3960
発行日 平成22年2月28日
ホームページ <http://www.city.saitama.jp>
E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

